

A R T

All Rikkyo Tennis

立教大学体育会庭球部部報

発行所

立教大学体育会庭球部

〒171 豊島区西池袋3丁目

電話 (985) 2680

発行人 東 樹 秀 明

強い立教テニスの復活を!!

——全力で一部を目指して——



来年こそ期待 にこたえて

庭球部長 伊藤 謙哉

昭和から平成へと年がかわり、今年もART発行、OB総会の季節となりましたが皆様お元気でいらっしゃいますか。今年のメンバーは昨年とほとんど変わらず、実力的には昨年を上廻ると思われ、大きな期待をもってリーグ戦に臨んだのですが、結果は2部リーグ残留を果たしたにとどまりました。部長として期待して頂いたOBの皆様方にまことに申しわけなく思っております。ただ今年の2部は全体としてかなりレベルが高く、その中で各人が互角の試合を多く展開したことは来年への大きな布石になったと思います。また今年もリーグ戦会場に例年になく多数のOBの皆様方が応援コーチに参集して頂き心から感謝しております。

来年四月には新座キャンパスが開校します。体育館を中心として建設される体育施設での体育活動は活発化してくるものと思われ、また、現在議論が進められています「スポーツに関する推薦入学制度」に対する

発行にあたって

庭球部OB会長 田中 富弥

例年大変ご厚配賜り有り難く御礼申し上げます。残念ですが本年も二部に低迷する結果となり、誠に申し訳なく思っております。今後はこの反省のもと一段と練習に励み頑張らせますので宜しくお願い申し上げます。

このような情勢の中で、来年四月体育会活動のトップを切っ先としてスタートする庭球部リーグ戦では、力いっぱい活躍して新しい時代への大きな足跡を刻みたいと思います。新メンバーの学生諸君も十分自覚してこれからの一年足らずがんばってこれるものと確信しております。OBの方々におかれましてはご多忙とは存じますが、今後とも後輩のため技術的にも精神的にもご指導頂きたく、この場をおかりしてよろしく願います。

広い視野で 新たな挑戦を

庭球部副部長 栗原 謙二

庭球部に関係することになり一年余りがたちました。また、年間のスケジュールがやっとのみ込めたという程度で、なかなかお役にたつこともなく、OBの皆様方に申し訳なく思っております。今期のリーグ戦を戦い進んできた学生諸君を見ていると、次の目標に向けて変わってつある姿、またその努力が現れているように強く感じました。このような努力や経験をもとに、次のステップへ進めるように、応援していきたいと思っております。

今年の春のリーグ戦の頃、出張でカルフォルニア大学のサンタバーバラ校へ出かけておりました。校内には色々な運動施設があり、テニスコートは三か所にハードコート計二十五面、夜十時頃まで夜間照明があり、誰でも自由に使っていました。聞いたところでは、バレーやテニスレベルが高く、バレーやテニスピックチームには、この学生が加わっているそうです、そこで立教大庭球部のリーグ戦を思い出しながら、いくつかの男子および女子の米国の大学テニス対抗戦を観戦しました。学生諸君には、近い将来に海外遠征も可能性のひとつとして考えながら、広い視野で毎日の練習に励んでほしいと思っております。どうかOBの皆様方も、一層の励ましをよろしく願います。

テニスをもっと 好きになれ

監 督 小西 一三

今年のリーグ戦も期待していましたが、なんとか2部を死守したという結果にとどまりました。そこで私から現役諸君に2・3の助言がある。まず第一に現状に満足せずに常に努力を重ねること。現状に満足せずに、一年間がんばったものだけがリーグ戦で勝利できるということである。次に2部をキープでき

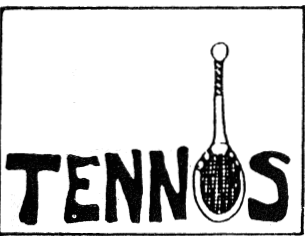
る実力をつけること。これは2部を簡単にキープできないけれども、ましてや一部などねらえるはずがないということである。そして最後に、テニスをもっと好きになれと言いたい。昔から「好きこそものの上手なれ」といわれるが、まさにその通りなのである。現役諸君はこの事を頭にに入れて練習してほしい。又、今回のリーグ戦に多くの若手OBが家族連れで応援に来てくれた。このようなことは他校にはもちろんなく、アットホームな雰囲気はとてほほえましく思えた。どうかこれからも立教大学庭球部を愛して下さい。

今後の立教 テニスの課題

ヘッドコーチ 倉光 哲

今年のリーグ戦も無事終了、2部を死守したというのが本音ではないでしょうか。元一部隊の法政・東海大などほとんどの二部の他校が一部半の力を持つ中で立教の現役も良くやっていたのではないのでしょうか。立教大学体育会数十部ある中でメジャースポーツの中で野球やラグビーのように下におちる心配のない対抗戦グループは別として（これも入替戦を行えば、三部以下でないか）入替戦形式をとったメジャースポーツの運動部ではたして二部以上の部が何部あるかということです。昔立教の代名詞であったようなバスケット、バドミントン、アイスホッケー、サッカーなどすべてよくて三部という現状で、私の知る範囲ではテニスと、アメリカンフットボール位ではないでしょうか。今年のリーグ戦においては結果的には二部の最下位（すなわち関東リーグの上から十二位）に終わりましたが、敗れた二校の筑波大と日体大（共に5-4）が逆であれば三位に食い込めたわけでこれはすなわち関東リーグにおいて9位ベスト10に入るという現状の立教スポーツの中における一つの堂々たる成績なわけです。（私もリーグ戦の最中に一部復帰も、もちろんだが、まずベスト10を目指

そうではないかと現役にハッパをかけたものです。現状の環境下では我立教テニスの現役は良くやっている。しかし過去の栄光を知る私も含めたOBはそれでは納得しない。では一体どうすればよいかということになります。今のプロ全盛のスポーツにテニスに於て強くなる為には私自身も痛感するものが、一に金、二に環境、三に素材とされています。一に金については個人の選手を強くする為には金を使って名プロコーチをつけてというのがテニス界の一つの今や常識になっていきます。（松岡修三君の例）しかし立教テニス部の場合には、学校よりの援助金が0という現状では自らが金集めを真剣に取り組むことが絶対に必要となります。第二の環境これは毎日曜日池袋の立中コートで練習が可能になったということ。又志木の荒川土手から移転することという明るいいきざしがあります。第三の素材については、現状の付属中、高テニス部にほぼ百パーセントたっているわけで、何としてもうわさのぼりつつある念願の推薦枠の実現を可能にすることであるとします。現状の以上の三要素で金がない、コートは学校から二時間かかるへんびな場所。又推薦入学が全くきかないという他校に比べて最悪の条件下でやってきたわけですのでこれら三要素に改善のきざしが見えてきた今、一部復帰も遠いことではないと手ごたえを感じています。現役のがんばりはもちろんのこと、学校側とOBが今こそスクラムを組み強い立教テニスの復活を目指そうではありませんか。



平成元年年度年間スケジュール											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
リーグ戦	テニストーナメント 春季関東学生	新入生歓迎会	OB総会(七月四日)	全日本学生 テニス選手権(有明)	夏季関東学生 テニス選手権	同立定期戦 夏季合宿	新進テニス選手権	明立定期戦	納会		春季リーグ戦合宿

平成元年

関東大学テニスリーグ結果

二部第六位

第一戦

四月一日

於 東海大コート

本学5 (D2-1) 4 東海大

(S3-3)

四月一日、我々庭球部は平成元年度のリーグ戦、東海大との第一戦を東海大のコートで行なった。初戦をものにすか、しないかで今後リーグ戦において大きな違いがあるため、部員全員朝から気合が入っていた。まずダブルス三本。私はナンバ1のライオンジャッジに入ったのだが、序盤は3本ともリードしていたのでこれは3本ともとれると思っていた。しかしナンバ1は勝ったもののナンバ3が負け、ナンバ2も第一セットをおとし第二セットもリードを許すという展開であった。ここでナンバ2はタイブレークにもつれこみながらもつてファイナルセットに持ちこみ、これを7-5と奮起して逆転勝利を修めた。そしてシングルス。流れは本校にきたと思われたのもつかの間、ナンバ4・5・6が敗れて2-4、相手に先に王手をかけられた。本学が勝つにはナンバ1・2・3どれも落せないのである。しかしここでナンバ1の山田がストレートで勝ち、ナンバ2の昆野も足がつりながらもファイナルで勝ち、ナンバ3の増田は相手に5本ほど先にも逆転勝ちして本学に本気で貴重なポイントをもたらした。この時、私は一年の時に味わった東大戦に勝ったときの喜びと同じ位の感動を覚えた。そしてこの勝利によって本学は一部との入れ替え戦に一步前進したかのように思われた。

三年 戸田雅道

第二戦

四月四日

於 青山学院大コート

本学2 (D0-3) 7 青山

(S2-4)

リーグ戦第二戦、対青山学院大は四月三日に行われる予定であった。当日、私たちは勝利を信じて、綱島の青学グラウンドに乗り込みました。チームの状態は、私たちが立教大側は、一昨日の東海大戦で、大接戦の末勝利を収めていたため、チームのムードは高まっていた。一方、青学大側は、昨日に続く連戦で、チーム全体疲れている様子でした。このことから、たしかに相手は強いかもしれないが、このままやればいける、と私たちは思っていました。反対に相手はイヤに思っていたでしょう。しかし、私たちが青学グラウンドに着いて間もなく雨が降り出しました。結局雨は降り止まずに、試合は翌日の四月四日に持ち越されました。ここで気を緩めてはいけません、さらに気合いを入れようという私たちは誓いました。

第三戦

四月六日

於 立教大コート

本学1 (D0-3) 8 法政大

(S1-5)

四月六日木曜、天気晴れ。場所は富士見の立大グラウンドで行われた。第一戦では東海大に5-4で逆転勝ちをした後、第二戦では強敵と言われている青学大に2-7で負けてしまった。一勝一敗で迎えた第三戦。立教大としては一部昇格をめざす上で、どうしても勝たなくてはならない試合であった。法政大は目下二連勝。なかなか手強い。まず最初のダブルスの三試合では、今年のリーグ戦が始まって初めてダブルスナンバ1に昆野・柳内組が起用された。しかしダブルス3本はあえなく0対3で終わってしまった。

また、シングルスもナンバ5・6が敗れて、この時点で負けが決まってしまった。結局、立教大はシングルスナンバ1の山田主将が一矢を報いた一勝だけで、スコアは1対8で敗れてしまった。結果こそ大差で負けてしまったが、ファイナルまでいった試合も多く、内容的には非常に接戦であった。私は一年でポールボーイをやっていたので全部の試合は見る事ができなかつたが、特に印象に残った試合は元ジャパン資格をもつ法政大のナンバ1の玉那覇に山田主将が勝った試合である。法政大のやじ、応援というプレッシャーをもろともせずに戦った。並の精神力ではできないことである。

今年の立教大のリーグ戦のメンバ1は例年と比べて、豪華であったと思う。しかし敗れてしま

第四戦

四月八・九日

於 日体大コート

本学4 (D1-2) 5 日本

(S3-3)

リーグ戦もついに第四戦をむかえた。第一戦(東海大)の勝利を第二(青学大)、第三(法政大)戦へそのまま突破しようとした本学であったが、第二、三戦とも破れてしまった。しかし、まだ今回のリーグ戦の最大目標である一部昇格への道はとざされてしまったわけではない。そのためには、第四戦(日体大)には絶対に勝たなくてはならない。

試合前の練習では、今までにない緊張感があり、「立教ファイター」の声小さい者は先輩にながられてしまった。その日はダブルスの途中で雨が強く降り出し、ナンバ1の山田・増田組しかファーストセットをとることができなかった。そして試

最終戦

四月十五日

於 立教大コート

本学4 (D2-1) 5 筑波大

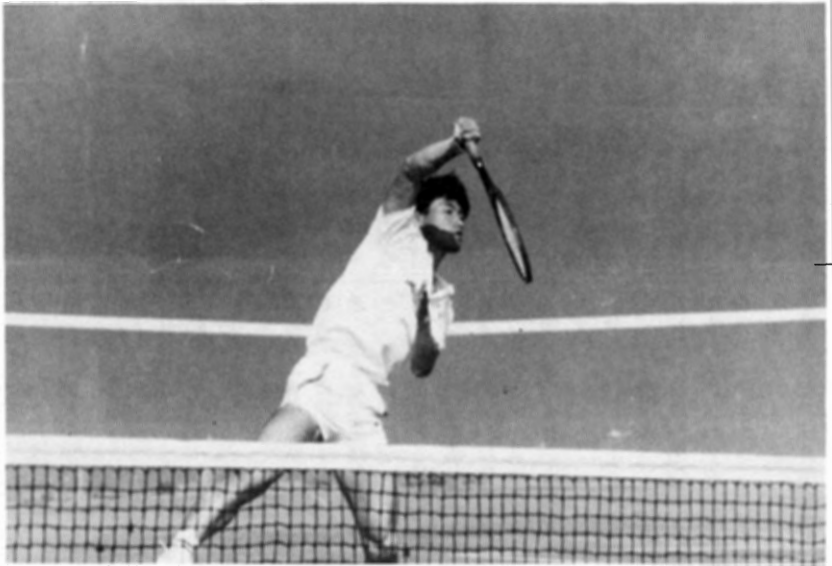
(S2-4)

一勝三敗で向かえた最終戦。対する相手校は、去年三部から昇格した筑波大だった。筑波大も一勝三敗で、その日他コートで行なわれていた日体大と東海大も一勝三敗で、六校あるうちの下の四校が一勝三敗でこの日に今年のリーグ戦の全てがかかった。

ダブルスナンバ2で出場した僕と主将の山田・増田ペアは事実上ナンバ1である高尾・二井矢ペアと対戦した。ファイナルセットを4-6で落とし、セカンドセットを辛くも7-6で取ったところで隣のコートが終わり、ナンバ1ダブルスは立教が取り、ナンバ3ダブルスは筑波大が取り、ナンバ2ダブルスの勝敗が、この試合の勝敗を大きく左右するように思えた。サービスキープ、キープでファイナルセットもセカンドセット同様タイブレークにもつれこむ大接戦となったが、最後の最後で、根性と気迫で相手を圧致し勝利をものにした。

ダブルス3本のうち2-1で折りがえしたシングルスは、下のナンバ16・5・4が、楽勝であると思われたが、油断が大きなミスとなり、ポイント数が3-3となってしまう。ナンバ3で出場した僕は、筑波大の主将である二井矢と対戦した。僕は、このリーグ戦の始まる前に、自分の試合に入ったら他の試合を気にせずに、その試合だけに集中し、勝敗に気をとられないでどんな場面になっても常にベストを尽くそうと心に決めていた。

ファーストセットを6-3で取り、セカンドも5-4でマッチポイントをつけたが、そこで勝ちを意識してしまい、逆にとられて5-7でセカンドを落とすしてしまった。ファイナルに入っても相手のペースで試合が進んだ。3-5となり、ついにダブルスマッチポイントが握られ絶



大日本法令印刷株式会社

本社工場 長野市中御所町3-6-25 TEL(0262)28-1113代
支社工場 東京都港区西新橋3-6-10 TEL(03)434-8641代

東海道メガロポリスをネットワークする... MIDグループ

Map of the Tokaido Megalopolis network showing four tennis clubs: 京都MIDテニスクラブ (Kyoto), 名古屋MIDテニスクラブ (Nagoya), 松下スポーツガーデン (Matsushita Sports Garden), and 津田沼MIDテニスクラブ (Tsudanuma). Each club box includes its address and phone number. A separate box lists the支配人 (Chairman) as 小西一三 and 副支配人 (Vice-Chairman) as 大田洋一. A note at the bottom right states: ※全コート夜間照明あり:ロッカー室、シャワー室完備

体絶命のピンチに追いこまれてしまった。そこであきらめれば負けていたに違いない。でも、苦しい練習を思い出し、自分を信じネットプレーに徹し、そこから4ゲームを連取しファイナルを7-5でとり大逆転をおさめた。勝敗の行方はまだまだわからず、ナンバー2シングルの筑波大に取られ、4-4でナンバー1シングルスに全てがかかった。しかしファイナルセットで惜しくも敗れ筑波大の勝利が決定した。

このため立教は二部で六位となり、三部との入替戦にかかったがそれには勝ち二部残留を決めたが、このリーグ戦をふりかえってみて、「ポイントの重み」というものを改めて実感した。二部六位となったが我々は他校に比べ本当によくまとまったチームだったと思う。

入替戦

四月十九日

於 立教大コート
 本学7 D2-1 2 東京大
 S5-1 1

平成元年、我が立教大学体育会硬式庭球部の二部においての戦績は、第一戦東海大学戦を5-4という競り合いの末のものにしたのであったが、その後いままひとつ調子の波に乗りきれずに、まさかまさかの四連敗、当初の一部昇格という目標は、はかなく消えてしまい、六位という不本意な結果を生んでしまったのである。

二部で六位となれば当然三部の一位と入れ替え戦を戦わなければならない。我々は、気持ちリフレッシュし、全力を東大戦にぶつけた。

東大と入れ替え戦を戦うのは私たち4年生にとっては、3度目の事、過去二回は我ががチャレンジャーとして東大に挑んだわけだが、今回は東大が立教に挑戦してくるという立場。入れ替え戦は、独特の雰囲気をもたらし出し選手一人一人にプレッシャーとなって襲いかかってくるため、技術どころより、前の5試合以上に精神力が占める



四年 篠崎亨史

ウェイトが大きいわけである。立教の選手はうまく精神集中ができたようだ。

ダブルス3試合がほぼ同時に主審の声とともに始まる。山田増田組、昆野・柳内組は、問題なく勝ったが、今回のリーグ戦でなかなか調子が出なかった渡辺・小田組が負けてしまった。ダブルスが2対1、ここはシングルス4・5・6位が勝ち勝利を確かなものにしたかった。全員の必死な応援に彼ら三人は、しっかりとこたえてくれ期待通り、渡辺・柳内・小田が勝ち勝利をものにし二部残留が決定した。

立教は、おと年に二部に復帰し二年間で戦ってきたおかげで三部とは、実力的にも精神的にも比較にならない強さを固めてきたような気がする。今年二部で6位ではあったが、二部の中では、力はそうかわるものではないかと思える。が、しかし三部と二部の間にも大きな差があると思う。そこを突き破るためには、二部のテニスに二部だけで通用するテニスに甘んじていてはだめだと思ふ。物事何にでも上には上があるものだから、立教大庭球部も、もっとと努力し成長して一部のテニス、一部で優勝できるテニスを目指し、自分のものにしていかなくては、と今回のリーグ戦を終えて再確認した。

「二年間を振り返って」
 主将 山田昇

「二部六位」という最悪の結果に終わってしまったわけですが、僕の心の中では、最高のチームだったと思っています。結果が結果だけに、考えが甘いとか、言い訳ばかりしていると聞かれても、それが勝負の世界では当然なのかもしれません。しかし部員一人一人が僕にとって最高の思いをさせてくれたのです。特に、マイパティーでの事故の出来事が、僕のそういう思いをおこさせたのです。

マイパティーでの事故は、運動していた者、怪我をした者の二人を、全員が励まし、又その二人は、痛心を怯えて、努めて明るく振る舞い、チームのために頑張ってくれました。次に春合宿のことです。今年の春合宿は二週間という長いものでしたが、その中で一人の一年生が僕の部屋に入ってきて『山田さん、お話しがあるのですが。』と言われ、僕はあまりにも苦しく、やめたいと言おうではないかと思いましたが、しかし人一倍熱心に練習する彼は、調子が悪く、苛々していた僕に、『自分の練習はいいです。僕の打つ時間は、山田さんが打つて下さい。僕はボールボーイをします』と言ったのです。僕は次に出てくる言葉がありませんでした。

そして最後にリーグ戦期間中でのこと。ここで誰よりもリーグ戦に出たかったらう四年生の木村、小島、篠崎、白寄田中、東樹の六人が、僕らを励まし、勇気づけ、練習を盛り上げて、裏方に徹してくれたことです。このような三つの出来事から、僕は最高のチームだったと思います。部員一人一人が、チームのために徹して頑張ってくれた一人一人の力だと思っています。

しかし、正直なことを言えばお世話になったOBの方々や、一年間一緒にやってきた部員のために、やっぱりどうしても僕は勝ちたかったというのが事

話なければ、何かいい事がある。今は、この言葉を信じるしかないと思います。僕は後輩たちに勝つ喜びではなく、負けた悔しさしか残す事ができませんでしたが、諦まずに頑張れば、一部昇格、王座優勝という日は必ずくると思っています。

最後になりましたが、OBの皆様へ、大変お世話になりました。期待を大きく裏切る結果しかだせませんでした。その期待はとも嬉しく励まされました。今後とも、本年度同様、後輩たちを温かく見守って下さるようお願い致します。

そして、部員で一番我儘で頑固な主将に、最高の一年間を与えてくれたみんなに、本当にどうもありがとうございます。



僕達3年が部を引っ張っていくわけですが、チームのムードとしては今年のようなチームになれればと思っています。来年のリーグ戦の事は今の現状では考えずには個人戦で良い成績を上げられるように努力していきたいと思っています。そのためには技術どころより、試合経験を多く積ませて、下手でも強いテニスが出来るようにしたいと思っています。これからはOB諸兄の皆様、何卒御指導、御鞭撻の程をよろしくお願い致します。

今年へのリーグ戦

坂井 邦夫先輩

（昭和五十七年卒）
 入部以来、一部復帰だけを目指して来た最後のリーグ戦は、早大との一部入替戦でありました。この入替戦に勝てば私の学生生活は悔い無しという事だったので、結果は4-5で敗れてしまいました。単復共に出場させていただきましたものの貴重な2ポイントも早大に献上してしまいました。目標達成を後輩に託し、一部復帰が成されるまで、仕事の無い日のリーグ戦は必ず応援に行くと心に決めました。本年度のリーグ戦は当初より混戦が予想され、一部との入替戦出場も夢ではないという話でありましたので、期待に胸を膨らませ、第一戦の東海

大戦と第四戦の日本大戦の応援に駆け付けたら幸いです。結果は東海大戦が5-4と逆転で勝ち、日本大戦が4-5で逆転負けと、スコアだけでなく試合内容、勝敗の流れ共に対外的な試合でありました。ある面で逞しく成長した後輩の姿に感激し、またある面では、私の時代同様の精神的なあまさを痛感してしまいました。しかしながら部員数も多く、有力選手を集めた対戦校に対し、部員数も少なく練習環境も悪い我が校の選手が対等に戦っている姿は妙に清々しく思え、何より私を含めたOBが多数応援に駆け付けたという雰囲気（対戦校にはOBの応援はありませんでした）は他校に無いものだなと感じました。東海大戦で2年生の増田君が相手のマッチポイントを数本かわした末に勝利をつかんだ瞬間のOB・現役合わせた一体感、特に苦しい下積み仕事の多い一年生が流した涙には感動しました。リーグ戦の結果は二部六位と、とても誉められるものではありませんが、合宿、試合を通じて随所で出せた一体感が常に出来る体制になれば、自ずと先は開けて行くのではないのでしょうか。現役は現役の立場を良く考え、私達OBはOBの立場を良く考え、一部復帰が一年でも早く成されるような共同体制が組まれる事を切望いたします。

フミヤスポーツマッサージ

テニス界の老舗「フミヤスポーツ、倉光哲（1987年度、関東オープン優勝）(43才・現役テニストーナメントプロ)の専任トレーナーが
 ぜひ皆様のご来院をお待ちしております。

●各種スポーツ障害(テニスエルボー他)に

《池袋本院》
 ◎営業時間：9:00~20:00
 ◎休診日：日・祝祭日
 (予約制)
 豊島区南池袋1-23-6
 ☎03-971-3079

《高輪分院》
 6月末開院
 品川プリンスホテル
 高輪テニスセンター内

(JR池袋駅東口より徒歩2分)

情報と文化の新しい流れを 創りつづけて86年

第一法規出版株式会社

本社 千107 東京都港区南青山2-11-17
 TEL.(03)404-2251代

支社 札幌/仙台/長野/名古屋/大阪/
 広島/高松/福岡

営業所 沖縄

OBの声

現役時代を

ふりかえって

広瀬 勝蔵先輩

(昭和四十年卒)

私の現役時代を振りかえって印象深かった事を少し書いてみたいと思います。今でも忘れません。受験の時に新学院での練習を見たのが初めてでした。小西(現監督)、石井先輩のファーストサーブの速さ、また合瀬先輩のコートの外へはっばり出されるようなツイストサーブ、本当にびっくりしました。はたしてレシーブを返す事が出来るのかなと考え込んでしまいました。しかし入部してからしばらくそういう心配は全々ありませんでした。何故かと言いますと、私のレベルが低すぎて一緒にプレーする機会がまったく無かったからです。ただそういうプレーぶりを常に横から見ていた。楽しさ、喜びはありました。いつか試合をしてゲームでも二ゲームでも取ってやろうとボールボーイをやりに見えておりました。数ヶ月がたち昼休み時間になり、鋭いボールがくるようになり、鋭いボールがくる打ち負け、思うコースにボールを打つ事ができません。先輩は口では何も言いませんが、「何やってんだ。もっとしっかり返球してこい。」という言葉が返ってくるように思え必死になって打ちかえしていた自分を思い出します。当時は個性ある先輩がいっぱいおられ、徹底したサーブ&ボレーの石井先輩、ベースラインプレーヤーで特にバックのパスティングが見事だった倉光(純)先輩、ドロップショットとスマッシュが得意で相手を自由に動かした自分のベースに引き込む高橋先輩、その外、全日本インカレ、関東学生選手と相手にはことかかない時代でもありました。そういう時期に入部した事は非常に幸運であったと思います。色々な個性ある選手が勝つ為にどうしたらよいか、サーブを強くする為にどうしたら

良いか、ツイストサーブを受けるにはどうしたら良いか、色々創意工夫しなければなりません。当時はビデオはなく、8ミリカメラでプロの試合、デカップ戦等をとっては、スローにして何度も何回もくりかえし見て、どうしてあの様なボールが打てるのか、サーブのリストの使い方などはどうなっているのか等、色々研究したものです。現在はビデオもあり世界中の情報がいつでも入ってくる時代になりましたが、それを活用する姿勢が少ない様に思われます。決った曜日決まった時間練習しているだけでは並以上に強くなれません。またコートに入る迄にどれだけの事をやっている、どれだけの事を考え練習しようとしているのか、心構えが大切だと思います。その時代、時代の環境の差はあれ、人一倍創意工夫する事が、自分自身にとっても、将来社会人になっても非常に役にたつことだと思います。現役の皆さんの健闘を祈ります。

OBとして思う事

沢松 忠幸先輩

(昭和四十三年卒)

最近、現役のテニスに接する機会があり、何か気がついた点をと依頼されましたので、以下に記します。

以前、NHKテレビで「横綱」と題する特集番組を見て、「心・技・体」と言う言葉が強く印象に残っています。現役諸君の練習、試合を見て、気がついた点は以下のとおりです。

一、「心」
道を求める心は今も昔も変わらない。(テニススコートを離れても、日常生活の中にこそ、集中力・忍耐力養成の場がある。例えば見たTVもがまんして充分睡眠をとる事など)

一、「技」
基本の習得。(トップスピニングが果して日本人に適しているのか。基本はフラットではないのか。)

科学的トレーニングの継続。(今ではジュニアでもやっており、毎日試合後でも続ける事。

一ヶ月で体力が変わる。以上、現役諸君が折角四年間という他の学生に比べ貴重な体験を得るのにあたり考えてほしい点です。現役諸君に接して、一人一人はやはり我が母校の学生にふさわしい人格、気品、ふるまいを持っており、先輩として誇りに思っています。不足しているものは、日々の修業の道から得られる勝負の厳しさに立ち向かう精神力ではないかと思

います。さて、OBとして何をやらねばならないか気がついた事を記します。

一、中・高・大の一貫指導体制
二、シャワー・電話付の部室の建設

今すぐできる事、できない事があります。とりかかると必要があると思

最後に、リーグ戦前の志木での練習中、家が遠い為コートわきの車の中に泊まり込んでいた下級生がいたことを思い出します。彼は翌日、レギュラー主体の練習の中でほとんど一日中生懸命ボールボーイをしていました。社会に出て大切な事だと思

全英オープン観戦記

鹿浜 哲也先輩

「ウィンブルドン」この大会を四大トーナメントの中でも特に力を入れているプレーヤーが多いと聞きます。また私にとっても思い入れの強い大会でもあります。というは私がテニスを始めるきっかけとなったボラグが一九七六から一九八〇にかけて5連覇という偉業を成し遂げた大会であるからです。

そのウィンブルドン観戦が現実のものとなったのです。というのも昨年私は英国留学とい機会に恵まれたからです。私が観たのは大会初日でした。しかし当然チケットなど持っているはずなく、当日券を求めて朝九時から列に並び、十時頃に入場することができました。チケットは5英ポンド(約千二百円)でそのチケットはセンターコートと第一コート以外は自由に観戦

できるといふものでした。さっそくオーグーオブレイを見ると、岡本久美子選手が1Rで入っていました。そのコートに行くくと、びっくりしたことにたくさん日本人が応援に駆けつけていました。その中には坂井利郎さんの姿もありました。さて試合の方は岡本選手が期待にこたえてくれて、ストレート勝ちを修めました。その後雨の中断も当然のごとくありましたが、何試合か見てまわりました。しかし私の心は今一つ満足しませんでした。というのもウィンブルドンへ来たからにはセンターコートへ入場したいという強い欲求がわいてきたからでした。でも私のチケットではセンターコートに入場できません。そこで私はチケットをゆずってもらうことを思いつきました。というのもセンターコートのチケットは何回でも出入りが自由なので、センターコートから出てきて下級生がいたことを思い出します。意外にもこの作戦はすんなりと成功をおさめ、念願のセンターコートへ入場しました。

「ここがあのボルグ、コナーズマッケンローが死闘を演じたコートなのか」と思うと感激しました。芝生の青々しさ、スタンドの巨大さにも感動しました。試合の方はエドバークとベツカの各々の1Rを見ることができました。1Rというところもあり、格下相手に楽勝していましたが、十分ウィンブルドンの雰囲気と興奮は味わえました。さらにこの二人は今大会のファイナリストとなったのです。本当にラッキーでした。

最後になりましたが私はこのウィンブルドンのセンターコートで立教関係者がプレーし、我々が応援する。そんな日を心待ちにしています。後輩諸君、がんばって下さい。

合同練習会について

新副将 小田 真義

秋も深まる十一月、今年も池袋の立教中学校コートと大学新学院コートで、立教学院庭球部合同練習会が開かれた。

立教小学校・中学校・高等学校・大学・大学OBが集まり、さわやかな汗を流した。今年も九十人程集まり、午前中練習会午後トーナメントを行なった。午前中の練習会では、約十人ずつのグループに分かれて、各コート熱の入った練習が行なわれた。

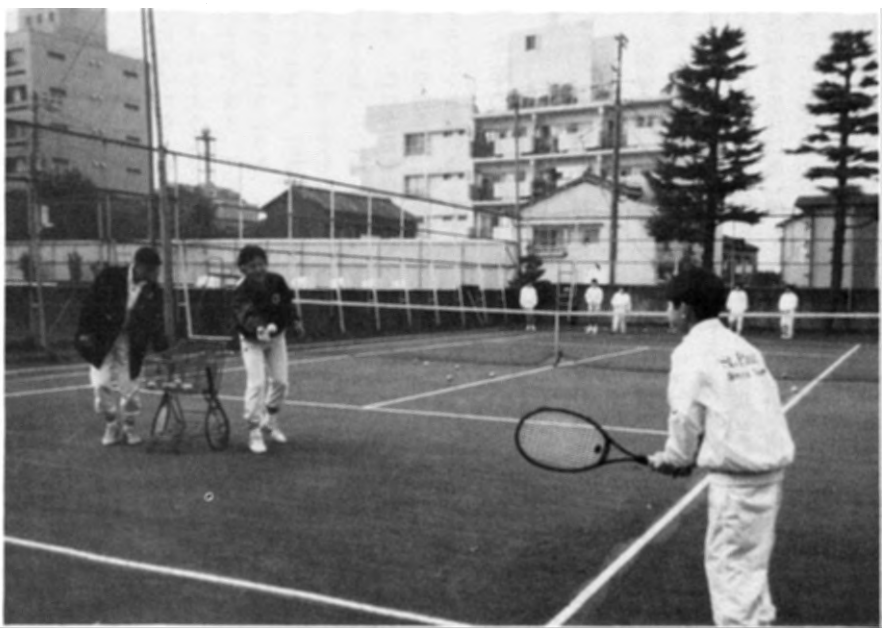
午後のトーナメントでは、各校の代表が十人ずつ出場して、少ない賞品を競ったが、途中で日没となってしまった。

毎年恒例のこの練習会だが、僕は中学から立教なので今年で九回目でした。中学二年の時の練習会で初めてトーナメントプロの倉光OBと打ち合った時の事は今でも覚えていて、当時うれしくて家に帰ってから親に自慢しました。



高校二年の時のこの練習会では、三人の大学生に試合をして勝ちました。僕にはこのように色々な思い出があるこの練習会ですが、きっと他の皆さんにも同じ様な思い出がある事と思います。

この練習会によって立教学院庭球部の縦のつながりは強くなり、全体のレベルアップになると思います。僕はあと一年で現役引退ですが、OBになってもこの練習会に参加して、いつまでもこの練習会を大切にしていきたいと思



上野運輸グループ主要会社

創業 121年

株式会社上野運輸商会

三光石油株式会社

オクサリス・ SHIPPING Inc

東邦海運株式会社

株式会社ワイ・エス・ケー

ウエノ・ストルト・タンカーズ Inc

上野ケミカル運輸株式会社

上野興産株式会社

株式会社ラック・コーポレーション

上野輸送株式会社

伊勢湾防災株式会社

上野ビルメンテナンス株式会社

上野石油倉庫輸送株式会社

上野マリン・サービス株式会社

日本ハウジング株式会社

旭日通産株式会社

中部マリン・サービス株式会社

京都サザンテニスクラブ

旭菱石油株式会社

西部マリン・サービス株式会社

上野システム開発株式会社

特許小宮山式

スプリンクラー装置

- 特許小宮山式：ドレンチャー装置
- 特許CEC式：室内自動消火栓
- 〃：屋外自動不凍消火栓
- 〃：CO2ハロン消火装置
- 〃：泡消火装置

防火設備・設計・製作・施工



建設工業社

東京・渋谷区渋谷3丁目27番13号 電話(409)9511(代)

昭和六十三年年度

定期戦結果

同立定期戦

十月十日

立教大コート

本学1 (D112 S016) 8同志社大

同立戦をふりかえって

二年 中尾 正芳

一年間、立教大学の硬式テニス部員として、連日の厳しい練習と共に、その成果を発揮する場として数々の行事を経験してきました。中でも秋に行われた同志社大学との定期戦は、いろいろな思い出を作ったBIG EVENTでした。毎年、交互に会場を変えて行なわれるのですが、昨年は、同志社大学がこちらへ来る年でした。

同大の人達を向える当日、彼らは青山学院大との対抗戦を終えた翌日にもかかわらず、疲れた様子は一つも見せなかった。池袋駅前に集合したブレザー姿の一群は、それを見ただけで、関西リーグ一位の堂々としたものを感じさせた。それぞれ学年に分かれて相手校を食事招待し、その後のめんどうを見ることになった。同志社の一年は十三人で立教は五人だった



が、人数の差以上に彼らは元気があった。翌日、五時台に起きてコート整備をし、その後試合と打ち上げが待っているというのに、彼らの関西弁は深夜まで止むことを知らなかった。同志社には最近勝っていないというところだったが、関東と関西ではかなり力の差があるとも聞いていたので、関東二部のうちなら、いい試合をやれるのでは、と僕自身は思っていた。しかし、やはり結果は、立教の一方的な負けとなってしまった。ダブルスで一本取ったものの、スコアは二対八。内容は、互角とまではいかなくとも、主力選手を相手にファイナルの試合もあり、それほどの差はなかったように思う。しかし、重要な場面での集中力という点では、さすがと思わせる部分があり、相手にはあった。

試合後の打ち上げは、敵、味方関係なく、とても盛り上がり、楽しいものであったが、毎年この定期戦が行われる以上、負けてばかりでは相手に対しても恥かしいので、今年こそは勝てるように、ふだんからみんな頑張っていきたいと思えます。

明立定期戦

十一月二十一日

於 八幡山コート

本学2 (D112 S115) 7明大

明立戦をふりかえって

二年 足立 充生

十一月二十日今日も雨が降りそうな天候の中で立教と、明治の定期戦が行われました。

まずダブルスナンバー3の小島・小田組と、ナンバー2の小島・柳内組が試合に入りました。明治は一部に昇格して立教よりは確かに強いメンバーがそろっていますが、勝負の世界では何が起きるのかわからないので、試合に入っていない人も応援や、審判や、ボールボーイでがんばって試合を盛り上げました。しかし小島・小田組は善戦むなく敗れてしまいました。

一方、となりでは尾野・柳内組はサーブ、リターン共に好調でファーストセットをとり、セカンドセットも苦勞しながら成績を一勝一敗としました。応援もチームのムードもその時には一丸となって、明治にも勝るものになっていました。そして、ダブルスナンバー1の対決が始まりました。これを取れば二勝一敗になり、全体に有利になるので絶対に落とせない一戦です。ちょうど試合開始頃から雨も降り始めましたが、雨が降っている事も忘れる様な白熱した試合でした。しかし、少しずつポイントが明治の方に動き惜しくも山田・増田組が、負けてしまいました。その日は結局ダブルスだけで雨天順延になってしまいました。成績は一勝二敗になりましたが、シングルスで必ず逆転させようと固く心にちかいました。

十二月四日に続きのシングルス6試合行われました。逆転勝ちを部員全員が心にちかいました。人がファイナルの末に勝っただけで、他の選手は善戦はするものの少しの差で決着せり負けてしまいました。頼みの主将、山田さんも明治の上原さんにスト

レートで負けてしまい、昭和六十三年年度の明立定期戦は終わってしまいました。結果は二対七で負けてしまいました。ムードは立教の方が良かったと思います。そして来年は苦しい戦いになるけれども、何とか勝ってみたいと部員全員が心に固くちかいました。

昭和三十一年以降の

明立戦戦歴

63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	
明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立
治	治	治	治	治	治	治	治	治	治	治	治	治	治	教	教	教	教	教	教	教	教	教	教	教	教	教	教	教	教	教	教	教	

卒業生紹介

武市広治 (経済) 主将

「ケの日があるからこそハレの日がある」とは武市主将に当てる言葉ではないだろうか。麻雀、女、寝坊、つまり練習以外の息抜きでも言うか、これができるからこそ、あのミラクルボールをうてるのです。

青山貴志 (経営) 主務

大きな顔でパワフルなテニスを展開、対戦者その顔を圧倒したものでした。又彼の素振りにはコンパで何度もビデオ再成され、私共の手本となりました。しかし体に似合わず主務としてきちんと仕事をこなして下さいました。就職先日本ユニシス

中島宏誌 (経営)

ランニングをすれば風のように走り、歌を歌いだすとマイクを決して離さず、コンパでは自ら芸を披露してしまうというオールランドプレーヤー。コートの中でも不敵な笑いで相手を混乱させ、勝利しているのです。就職先 富士銀行

四年間を

ふりかえって

中島宏誌 先輩 (平成元年卒)

時は4月、1年の浪人時代を過ぎ、ここ立教大学に入学した私は、中学、高校からの夢であったテニス部という気持ちでくぐりました。「テニス部はなにか」と思いながら歩いていくと、華やかなサークルの雨・嵐。「ねえ、君テニスやらない」という甘い声に誘われるまま私はあるサークルに入っていた。その後華やかな生活と楽しい毎日、しかも自分にとって上手いと思える人達がいる中で、自分としては充実した日々を過ごしていた。その後6ヶ月が過ぎ、サークルがオフになると私は自分の大学生活について思いをめぐらせるようになっていた。「僕はまず大学でなに

をしたかったのか」「テニスではないのか、しかも体育会」という思いが高まり、一担決心すると後に引けない性格ということもあり、私は大学1年の2月に、今の4年生連と時を同じくしてテニス部に入学しました。最初はボールボーイ、テニスのマナー、OB・先輩との接し方あの富士見のコート等、見る物聞くものが初めてのものばかりでただ圧倒されたものである。そして何よりも圧倒されたのは皆んなのテニスに対する意気込みと考え方である。たまたまりーグ戦前ということもあり、皆の気合には最初ついていけなかった所があった。テニスに対しての考え方がこれを期にまるつきり変わってしまった。ただ球をうまく打てばいいと思っていた自分が情けなく、試合にいかにか勝つかということに第一に考えている皆のテニス観に感動したことを今でも忘れない。その後、長い一年生の生活の中で、つらいことがたくさんあったが、今はとくに経験として覚えていても、心の中で実際は忘れていく。本当に覚えているのは、こうした私を、中学からテニス人生を歩んできた皆が暖かく受け入れ、同じ様に練習させてくれた立大テニス部の皆、時には私のおがままを許してくれた先輩色々な個性が集まった後輩達、2人しかいない、いろいろあったが今思うと懐しい同輩達である。

中島総業株式会社 株式会社 ユキ・ジャパン

群馬県館林市大手町7-20

0726-72-0420

昭和54年卒 秋山英晴

昭和51年卒 中島幸彦

椿 DINNER BAR

TUBAKI

Roppongi Minato-ku Tokyo Phone 03-405-4335

港区六本木3-10-4 コンビル3F Tel. 405-4335

Open 6:00PM~3:00AM 日曜休み

椿三十郎のパーティー

- ★ほのぼのパーティー ひとり3000円くらい
- ★わいわいパーティー ひとり4000円くらい
- ★がやがやパーティー ひとり5000円くらい

時間...三十郎と相談 早い時間は貸し切りもOK

人数...40名くらいまではらくらく

予算...三十郎と相談 楽しい企画の演出OK スタッフ のります

JRはらじゅく駅

表参道 竹下通り

ラフォーレ(パートII) パレフランス

明治通り

地下1階 椿三十郎

でんわ (408) 9494

「椿メンバーズカード」あります

立教大学体育会庭球部名簿

Table with columns: 学年, 学部, 学科, 役職, 氏名, 出身校, 〒, 住所, 電話. Lists members and staff of the tennis club.

新入生紹介

三年 丹治 均

私は経済学部三年ですが、今年から庭球部に入部した為に、一年生として活動しています。

一年 大須賀 将徳

自己紹介させていただきます。千葉県立国分高校出身、社会学部産業関係学科一年、大須賀将徳です。

一年 片岡 聡

自己紹介させていただきます。神奈川県立鎌倉高校出身、理学部化学科一年、かたおか聡とします。

一年 金子 誠

自己紹介させていただきます。立教高校出身、法学部国際比較法学科一年の金子誠と申します。

一年 深澤 伯亮

立教高校庭球部において、自分らの代は、諸先輩・OB方たちとは比べものにならないほど

一年 福良 直人

立教高校硬式庭球部出身、立教大学経済学部経済学科一年福良直人です。

平成元年度

新幹部紹介

平成元年度の新幹部が左記のように決まりましたので御報告申し上げます。

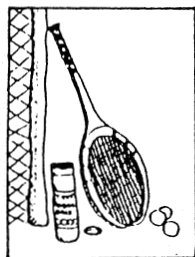
- 主将 柳内 崇 (446) 4098
副将 小田 真義 (446) 4098
主務 平井 智武 (307) 0153
副務 西口 弘利 (422) (31) 8094

編集後記

第六号を発刊するに当たりまして、まず大変お忙しいところ無理を言って原稿をお願いしたOBの方々、そして毎回広告のご協力をいただくOBの方々、本当にありがとうございました。

計報

香田安治先輩 昭和八年卒 六十三年五月



自己紹介させていただきます。出身高校は立教高校で、硬式庭球部に所属していましたが、テニスの腕はまだだったので、これから体育会でテニスの技術を磨いていこうと思っています。

